

肉の安全・安心は  
北陸ミートから!

HACCPシステム対応 北陸ミート株式会社  
本社・工場 / 富山市金屋 2718番13  
☎(076)443-7272(代)

富山

# ヒポクラテス を超えて



&gt;1&lt;

病室での松尾さん夫婦(2011年6月撮影、現在は一般入室不可)と松尾幸郎さん提供の裁判資料

コラージュ・大森治幸

◆20年ぶりの日本へ  
2001年9月11日。  
ハイジャックされた航空機が米ニューヨークの世界貿易センタービルに入した時、松尾幸郎さんは驚くしかなかった。「他人ごとじゃない」  
20年に及んだ米国での商社マンとしての生活。引退に伴う帰国を3週間後に控えていた。かつての事務所はセンタービルの53階にあった。「もし事務所がビルにあった

ハハイジャックされた航空機が米ニューヨークの世界貿易センタービルに入した時、松尾幸郎さんは驚くしかなかった。「他人ごとじゃない」  
20年に及んだ米国での商社マンとしての生活。引退に伴う帰国を3週間後に控えていた。かつての事務所はセンタービルの53階にあった。「もし事務所がビルにあった

## 夫婦生活を変えた交通事故

ら、私はここにいなかつたと思います」。妻巻子さん(70)との米国生活は、慌ただしさのなか幕を閉じた。帰国後は余生を生まれ故郷の富山で過ごすだけのはずだった。

### ◆暴走した車

06年7月1日午後8時。耳をつくづく衝突音が夜空に響いた。富山市



◆怒りの裁判 富山地裁で経験した屈辱を松尾さんは忘れることはないだろう。08年3月に始まった民事裁判で、加害者側の代理人弁護士はこう主張した。

（巻子さんの）平均余命は4・4年で、5年を超えることはない」「数倍から10倍の治療費を請求している」

から受け取った書類に並ぶと指摘。人工呼吸器や横隔膜ペースメーカーなどの取り付け——さまざまな手術を受けた巻子さん。命は取り留めたが今でもしゃべること、食べること、自ら呼吸することができない。

「人の命を何だと思つているんだ。生傷に塩を塗りつけるとはこのことだ」。裁判では松尾さん側の主張はほぼ認められなかつた。が、裁判中の2年間、巻子さんは認められなかつた。苦しみは続いた。

医療技術が日々進歩する日本。その一方で、命の終わり方を巡るジレンマも生じている。「延命措置を行うのか」「尊厳ある生き方とは何なのか」

内の中道で、中央線を越えた対向車が、巻子さんと運転する車と正面衝突したのだ。髪の毛をそら

れ、顔が大きく膨れあがいた。加害者は19歳の少年だ。居眠り運転だった。

富山市で見たその姿に、松尾さん

さんは直立不動でただ泣き下肢多発骨折。医者

求している」

ラテスは「医学の祖」と呼ばれる。終末期医療の在り方を探り、2000年以後の時を超えた生と死を巡る課題を追つた。

# 寄り添う生命の葛藤